

## －第6章 環境保全への理解と取組－

### 第1節 環境教育

#### 1 学校教育

##### (1) 概要

高松市教育委員会は、市内の小・中学校において環境教育を推進するため「指導の重点」としてとりあげ、環境教育の指導を行っています。具体的な指導項目については、以下の3点です。

ア 教育活動全体における様々な体験活動を通して、環境や自然に対する豊かな感性を高め、環境について理解を深める。

イ 環境の保全やよりよい環境の創造のために、発達段階や学年に応じて、主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育てる。

ウ 家庭や地域、社会施設、関係機関等との連携を図り、体験的な活動の場への積極的な参加を促す。

##### (2) 高松市子ども環境学習交流会の開催

地域や学校の実態や自然環境、社会環境に応じて行われている様々な環境学習の活動について、子どもたちが意見交換をしたり、環境保全にかかわる体験をしたりして、環境に対する意識を一層高め、環境教育の推進を図っています。環境学習交流会では年々、各校の取組発表の内容が充実してきており、環境教育の充実がうかがえます。

平成18年度から、市町合併に伴い学校数が増加したこともあり、高松市立の小・中学校を2班に分けて隔年での参加としました。そして、21年度は、昨年度に参加していない学校を対象に、7月23日（木）、7月27日（月）に南部クリーンセンターで開催しました。2日間で、172人の児童生徒、44人の教員、54人の保護者が参加しました。

##### (3) 小学校社会科副読本の発行

学校教育を通してごみ処理に対する理解と正しい知識を学んでもらうことを目的に、副読本「きれいな高松に・くらしとごみ」を小学校社会科研究会所属の先生方の編集により毎年度発行し、小学校4年生の社会科の補助教材として活用しています。

##### (4) 水源教育の推進

中学生を対象とした「香川用水の水源巡りの旅」を実施し、香川用水および水資源に対する認識を深めています。21年度は、4月から9月にかけて18校（参加生徒数 3,152名）が参加し、池田ダム、香川用水記念公園、東西分水工、早明浦ダムを見学しました。

水源巡りの旅の後、水についてグループ別に調べ、発表会を実施するなど、総合的な学習の時間を有効に活用し、体験と調べ学習、啓発活動を一体化した環境学習を展開する学校が増えてきています。

##### (5) 各学校における取組

ア 下笠居小学校の取組

下笠居小学校では、全校生で「エネルギー・環境教育」に取り組み、学んだことを生活にいかし、環境に優しいことをしようと、以下のような様々な取組を進めました。

《全校生での取組》

○エコライフデーの設定、エコチェックシートの作成

自分たちの生活から少しずつ改善していくために、まず自分の生活が環境に優しいのかどうかをチェックしました。毎月第1週に、エコチェックシートを家庭に持ち帰り、家庭で話し合っ、環境に

配慮した生活をするエコライフデーを決めて、チェックをします。チェック項目には、「テレビを見る時間やテレビゲームの時間を少なくした」「誰もいない部屋の電気を消した」「高松のルールどおりにゴミを分け、リサイクルした」等があります。自分や、家族のできることから、環境に優しい生活になるようにチャレンジを続けることができました。

#### ○紙のリサイクルボックス

ピカピカエコ委員会の呼び掛けから、各教室に紙のリサイクルボックスが置かれました。学校で使った紙を分別回収し、紙をごみとして捨てずにリサイクルしていこうと取り組んでいます。

#### ○みどりの小道 環境日記

3・4・6年生が環境に関する一言日記を毎日書き続けました。毎日日記を書くことで、学校生活だけでなく、家庭生活の中でも環境に対する意識が高まってきました。

#### ○環境集会の開催

6月の生活目標は「環境に優しい生活をしよう」でした。6月は特に水の使い方を考えながら各クラスでできることについて実践しました。4年生の目標は「ウォータークーラーの水をできるだけ飲まずに水筒を持ってこよう」でした。6月30日には全校集会を開き、各学年の取組について紹介し、全校生のがんばりを賞賛しました。

#### 《4年生の取組》

##### ○全校集会での「ごみの分別」の呼びかけ

6月23日の全校集会で、4年社会科「ごみのしまつと利用」で学習したことを生かして、全校生にごみの分別の大切さを伝えました。クリーンセンターで見学したことを劇で紹介したり、全校生にごみの分別クイズをしたりしました。集会後に、ごみ箱の表示板を配布し、ごみの分別が学校でも実践できるようにしました。各学級で、きちんとごみの分別をしてもらえるようになりました。また、家庭でもきちんと分別するようになった人が増えました。



##### ○総合的な学習の時間「取り組もう！町に優しい生活」の学習

下笠居に流れている住吉川と亀水川の様子を観察し、調べていくと次のようなことが分かりました。

- ・生き物がとても少なかったこと。
- ・パックテストをしてみると亀水川は少しかれいだが、住吉川は汚れていること。
- ・川に流れ込んでいるパイプがあり、パイプは家庭につながっていること。
- ・パイプからは生活排水が流れていること。



さらに調べを進めていくと、下笠居には下水道が整備されていないので、生活排水はそのまま川に流れ込んでいる家庭がほとんどであることが分かりました。

そこで、自分たちの生活を改善することが、川を汚さないようにしていくことにつながる事が分かり、生活排水をなるべくきれいにする方法について考えて、実践していきました。例えば、ある家庭では、食べ終わった後のお皿をふいてからお皿を洗うようにして川を汚さない生活にチャレンジしています。

今後は、実践したことを交流しながら、川がきれいだった昔の暮らしにも目を向けて、自分たちの

生活を改善し、さらに「町にやさしい生活」を実践していきたいと思います。

#### イ 一宮中学校の取組

一宮中学校では、「一宮中学校 心と環境の美化活動」をテーマに、以下のような様々な取組を進めています。

##### 《緑化環境の整備》

###### ○整美委員会による花いっぱい運動

生徒会専門委員会の活動として整美委員を中心に、正門および校舎周辺の花壇を一年を通して整備してきました。定期的な花壇の手入れや月に1度の生徒委員会のミーティングの中で、一宮中学校を花いっぱいの美しい学校にするための話し合いも行ってきました。



###### ○1年生の総合的な学習の時間での「一宮農園作り」

1年生の総合的な学習の時間では、環境に対する意識を高めるため農作物の栽培をしてきました。クラスごとに農作物は何を植えるのか話し合い、トウモロコシ、イチゴ、サツマイモ、ジャガイモなど様々な農作物が作られました。収穫した作物は、給食の時などにクラスで食べました。1年間を通して、食物の世話をし、命の大切さや農作物を育てる苦労も学ぶことができました。



##### 《心の環境整備》

###### ○ボランティアトイレ清掃

春休み中に全校生からボランティアを募り、校内のトイレ清掃を行いました。昨年度は、100名以上のボランティアが集まり、手にたわしとサンドメッシュを持ち、丁寧に便器を磨いていきました。トイレを磨くことは、トイレのつまりをなくし、汚れを取ることで消臭効果もあり、水の節約にもつながっています。また、各トイレには、トイレをきれいに使うように呼びかける掲示物が張られ、トイレの電気の節電も呼び掛けてきました。

###### ○プルタブの回収

毎月3週目の木曜日と金曜日はプルタブ回収日とし、7時40分から15分間、生徒会本部が中心となって、プルタブの回収をしてきました。回収したプルタブの資金で車椅子を買って、地域の老人ホームへ車椅子を贈ることができました。

#### (6) チャレンジ！グリーン活動

香川県教育委員会が実施している「チャレンジ！グリーン活動」に参加し、資源の有効活用等に積極的に取り組む教育活動の推進を通して、よりよい環境づくりや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる児童生徒の育成のために、平成14年度から行われています。

21年度は12校、23の推進グループが参加して、自主的に活動内容を考え、栽培、緑化運動、牛乳パック、プルタブ・アルミ缶の回収活動、地域清掃等の活動に取り組みました。

## 2 社会教育

### (1) 高松エコマイスター会議

私たちを取り巻く様々な環境問題を解決していくためには、市と市民・事業者のパートナーシップを築いていくことが不可欠です。

こうしたことから、そのパートナーシップを築いていくための一つの手段として、平成11年度からの2年間、市民の自発的な環境行動を支援するリーダーとしての役割を担うエコマイスターの養成事業を行いました。

13年4月、この養成講座の修了者が活動の輪を広げるため、自主的に集まり、高松エコマイスター会議を結成しました。

この事業活動の一環として、親子自然体験プログラム「エコマイスター自然学校」を開催しており、市民の自発的な環境行動への支援事業を展開しています。



「干潟で感動体験！エコマイスター自然学校2009」

開催日：平成21年8月16日（日）

開催場所：春日川河口

参加者：親子13組35人

## (2) 子ども農園事業の実施

子どもたちに、農作業を通じて自然にふれあえる機会を提供し、農作物を育てる喜びと、勤労の尊さを体験させる場として子ども農園事業を実施し、健康で情操豊かな子どもの育成を図っています。

平成21年度 13農園 7,115㎡



子ども農園事業の様子

## (3) 早明浦湖水祭四国の子ども交歓会

本市と高知県嶺北地域の子どもが、早明浦ダム湖畔などで交流活動を行い、水の大切さや有効利用を学ぶとともに、自然の中で友情を深め、健康で明るい子どもの育成を図っています。

平成21年度

実施日 8月7日および8日の2日間

実施場所 高知県土佐郡土佐町、長岡郡本山町、大豊町

高松からの参加者 親子18人



早明浦湖水祭四国の子ども交歓会の様子

#### (4) 市民文化センターの昆虫展示室

市民文化センター内の昆虫展示室（床面積約 170 ㎡）では、県内を中心に世界の有名な昆虫の標本 3,770 個体、約 800 種（128 箱）を集め、「ふるさとの昆虫」、「昆虫の生態と分類」、「昆虫と文化」、「カブトムシの巨大模型」、「昼と夜の樹木に集まる昆虫」の五つのコーナーを設けて展示しています。

子どもたちが、自然に親しみながら昆虫の種類や名前、生態を楽しんで学習できるよう各コーナーごとに環境写真や分布図・解説文を添えたユニークな展示方法をとっています。それは博物館などが専門的な視点で展示しているのと異なり、市民文化センターの昆虫展示室では、昆虫のくらしや生息環境が手に取るように分かるのが特徴です。特に、子どもたちに人気のある昆虫が、より身近に感じられるように、また、図鑑などを使わなくても実物と見比べながら自分で名前が調べられるように工夫し、昆虫に親しんだり、生命の大切さに気づいたり、生き物と環境について興味や関心をもてるよう工夫しています。

特に、環境の変化に伴い絶滅が危惧されている種については、レッドマークを表示するなどの工夫もしています。一方、近年の地球温暖化などによって、分布を広げ県内でもよく見られるようになった昆虫も分かりやすく展示しています。

今はよく見かける普通種の昆虫でも、いつ、いかなる事情で環境が変化して、それに適応できずに激減するかも分かりません。このため今後は、さらに郷土の昆虫資料の充実にも努め、常に実態をとらえ、郷土の環境保全と市民意識の高揚にも配慮していきたいと考えています。

平成21年度 入館者数 19,257人



昆虫展示室の様子

## (5) こどもエコクラブ

こどもエコクラブ事業は、環境を大切に思う心を育て、環境に対する人間の責任と役割を理解し、環境保全活動に参加する態度および環境問題解決に役立つ能力が育成されることを目的として、平成7年度から環境省が日本環境協会に委託し、将来を担う子ども達が主体的に行う環境学習および環境保全に関する活動を支援する事業です。

本市では、クラブの登録受付、キット配布等全国事務局との連絡を行っており、21年度の登録状況は次のとおりです。各々のクラブでは創意工夫ある自主的な活動のほか、全国事務局や市、民間企業の主催による行事に参加しています。

登録クラブ数および会員数

	高松市	香川県	全国
クラブ数	5	14	3,662
会員数	237	663	179,413

(平成22年3月31日現在)

登録状況

クラブ名	会員数	サポーター数
香西っ子エコクラブ	94	4
シオン・エコサイエンスクラブ	12	2
高松市立東植田小学校	46	20
さぬきこどもエコクラブ	6	2
弦打っこエコフレンズ	79	4

(平成22年3月31日現在)

## 第2節 環境保全活動

### 1 環境プラザ

高松市環境基本条例および高松市環境基本計画に基づき、環境に関する情報の提供ならびに環境学習および環境負荷を低減させるための体験・実践活動の場として、また、環境の保全および創造について市民の自発的な活動の支援・促進のための施設として、「高松市環境ステーション（仮称）」の整備を検討するため、平成13年7月27日に、学識経験者、事業者、市民団体の代表者等による高松市環境ステーション（仮称）整備検討委員会を設置しました。その後、整備検討委員会で検討を重ね、高松市環境ステーション（仮称）整備検討結果報告書が14年9月30日に提出されました。

その報告書を受けて、だれもが親しみやすく集まりやすい市の中心部に近く、自転車や公共交通機関の便も比較的良好、旧「高松市リサイクルプラザ（7年6月23日開設／西宝町一丁目13-30）」を整備拡充し、事業の効果的な展開を図ることとなり、名称を「高松市環境プラザ」と変更して、15年10月11日にリニューアルオープンしました。

#### (1) 施設の概要

所在地 高松市西宝町一丁目13番30号 TEL 087-861-6660 FAX 087-861-7600  
敷地面積 706㎡ 建築面積 320㎡ 延床面積 568㎡

構 造 鉄骨軽量気泡コンクリートパネル張 一部2階建

総事業費 1億6,101万1,660円

開館時間 10:00～18:00(土・日は17:00まで)

休館日 月曜日, 祝日, 年末年始

太陽光発電設備 効率向上追求型 容量10kW

(15年度NEDO太陽光発電新技術等フィールドテスト事業採択)

## (2) 事業内容

事業名	事業内容
出前講座	学校, コミュニティセンター活動, 環境関連イベント等への要望に応じて出前教室を開催
環境学習講座	環境問題全般の基本的知識の習得を目的とした講座を実施
リサイクル教室	事前の申し込みにより, プラザ内での各種リサイクル教室を開催
展示コーナー	地球規模の環境問題からエコロジーな生活の知恵まで学べるパネルを展示 粗大ごみ等の中から使用可能なものを展示
情報コーナー	環境に関する図書・ビデオ・DVDの閲覧・貸出, 全国自治体の資料の閲覧, パソコンを使った各種情報の検索など
交流コーナー	環境ボランティア団体の取組および団体の紹介, 情報交換交流の場を提供
啓発コーナー	環境に関する各種研修会, 環境学習講座, リサイクル工作教室等を実施
不用品交換情報 ボード	譲りたい物や欲しい物の情報を登録, 提供。情報はボードに掲示, パソコン に登録するほか, 「広報たかまつ」, 市ホームページでも情報提供
紙すき	事前の申し込みで, 紙すきの体験指導。プラザ内での指導のほか, 環境関連 イベントへの出展(出張指導も可)
石けん作り	廃食油を原料に, 石けん作りの体験指導(出張指導も可)

## (3) 年度別利用状況

区分	年度	H17	H18	H19	H20	H21
	来館者数(人)	3,987	4,275	4,052	4,053	4,767
1日当たり来館者数(人)	13	14	14	14	16	
図書・ビデオ貸出利用件数(件)	38	54	22	7	1	
不用品交換登録件数(件)	867	1,015	1,038	1,055	1,008	
出前講座件数	45	77	63	59	50	
出前講座人数	2,263	2,983	2,802	2,677	2,114	



環境プラザで学習している様子

## 2 南部クリーンセンター「エコホテル」利用者数(見学コースまたは学習室の利用者数)

南部クリーンセンターの管理棟には、環境問題について学習できる「エコホテル」があります。一階には紙すきや工作等を実際に体験できる「学習室」、二階にはパネルや映像を通して広く環境問題を学習できる展示ギャラリーや見学者説明室があり、見たり、聞いたり、また、体験を通して、楽しみながら学習できる施設です。また、見学コースは、職員の説明を受けながら、ごみ処理施設、廃棄物再生利用施設などを見学し、実際のごみ処理方法の実情を知ってもらいます。

また、平成21年度は、海外等からも視察見学がありました。(中国10人 オイスカ22人)

(単位：人)

施設 \ 年度	H17	H18	H19	H20	H21
エコホテル	3,669	3,133	2,518	3,230	3,646



見学説明



紙すき

## 3 衛生組合

### (1) 目的・組織

地域住民によって自主的に組織されている衛生組合は、地域社会を住みよい快適な環境とするため、生活環境の改善および環境美化運動の推進、環境および公衆衛生思想の普及向上等に関する自主的実践活動を行っています。衛生組合の組織は、単位組合が地区ごとに地区衛生組合協議会を結成し、これら地区衛生組合協議会が連合して、高松市衛生組合連合会を結成しています。

加入世帯 → 単位衛生組合 → 地区衛生組合協議会 → 高松市衛生組合連合会  
118,531世帯 → 2,630組合 → 46地区 (平成22年4月1日現在)

### (2) 活動状況

各地区衛生組合協議会等が中心となり、地区内の道路等の空き缶など散乱ごみの清掃を実施するクリーン高松推進事業への助成のほか、次のような活動を行っています。

- ア 環境美化運動の推進
- イ クリーン高松推進事業の推進
- ウ ごみ減量運動等の推進
- エ ごみの正しい出し方の普及推進
- オ 環境衛生知識の向上等

### (3) 助成措置

(平成21年度実績)

区 分	金 額 (円)
衛生組合連合会運営補助金	2,984,475
清掃事業等に対する傷害保険料	1,083,230
その他	1,653,100
合 計	5,720,805

## 4 その他の活動

### (1) 石けん使用推進

消費者団体の協力を得て、「暮らしをみなおす市民のつどい」等の啓発行事や廃食油収集事業において、石けんの適正使用についての啓発を行うなど、環境保全に対する市民の理解と協力が得られるよう努めました。

### (2) 廃食油収集事業

水質汚染の防止を図るため、家庭用廃食油の収集を高松市消費者団体連絡協議会および19地区コミュニティ協議会に委託し、廃食油を持参した方に洗たく用石けんを提供するとともに、適正使用の啓発に努めました。

収集場所	環境プラザ，市内22箇所のコミュニティセンター
収集日	環境プラザ…毎月10日（10日が土・日・月曜日および祝日のときは前後の平日に変更） 各コミュニティセンター … 各地区の指定する日（年3～4回）
収集時間	環境プラザ…午前10時～正午 各コミュニティセンター … 各地区の指定する時間

廃食油収集事業により収集された廃食油は、主に精製されて豚や鶏などの飼料として再利用され、食肉や卵などの畜産物を生産する上で重要なリサイクル資源となっています。そのほかインクや塗料、洗剤などの工業用原料や、燃料としてもリサイクルされています。

廃食油収集状況

年度	H18	H19	H20	H21
収集量 (ℓ)	6,606	6,228	5,328	6,701

### (3) グリーンコンシューマー活動

「環境にやさしい買い物推進協議会（グリーンコンシューマーかがわ）」に設立時から参加し、買い物袋持参運動や環境に配慮した商品選択の推進などの啓発キャンペーンに参加しました。

### (4) 使用済みわりばし回収

NPOグリーンコンシューマー高松の事業に協力し、平成20年4月より使用済みわりばし回収BOXを高松市環境プラザに常設しています。NPOグリーンコンシューマー高松では、環境プラザ以外にも、地域の祭りや各団体のイベント、コミュニティセンター等でも使用済みわりばし回収BOXを設置し、地域住民によるわりばし回収を行い、廃棄物の抑制、資源循環型社会の推進に努めています。

回収状況（環境プラザ）

年度	H20	H21
回収量 (kg)	1,474	1,924

